

1. 高病原性鳥インフルエンザ発生時の迅速な防疫対応へ向けた取り組み

宇佐家畜保健衛生所・豊後大野家畜保健衛生所¹⁾

○三上賢一・(病鑑) 堀浩司・足立高士・(病鑑) 尾形長彦¹⁾

【はじめに】

高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) が発生した場合、原則として病性判定後 24 時間以内に殺処分完了、72 時間以内に焼却又は埋却完了が特定家畜伝染病防疫指針に明記されている。迅速な防疫作業を実施に向け、現地対策本部と家畜保健衛生所 (家保) を中心に演習計画の検討を行い、適切な初動防疫計画書 (計画書) 作成のための現地調査の訓練、各作業場の設営及び防疫作業従事者 (従事者) の受入れ等について、平成 24 年度から本年度にかけて演習を行ったので、その概要を報告する。

【取り組み状況】

演習内容

- ・平成 24 年度：先遣隊 (現地調査担当者) の実地演習及び計画書の立案訓練
先遣隊が実際に各作業場予定地に行き、集会場、クリーンゾーン、ホットゾーンのレイアウト、必要資材・機材、必要人数等の割り出しを行い、計画書の作成を行った。後日、問題点の検討等を行い、各担当者が説明を行うことで北部地区特定家畜伝染病防疫演習 (防疫演習) とした。
- ・平成 25 年度：先遣隊の実地演習及び計画書の立案訓練
平成 24 年度の演習を踏まえて先遣隊が実際に各作業場へ行き、各先遣隊 (担当者のみ) で、必要な情報を収集、計画書の作成を行い、作成までの所要時間の計測を行った。後日、問題点の検討等を行い、各担当者が説明を行うことで防疫演習とした。
- ・平成 26 年度：疑われる事例発生から防疫作業支援者解散までの実地及び机上訓練
事前に各作業場の係長を中心に作業内容を作業概要書にまとめ、事例発生から防疫作業支援者 (支援者) 解散までの演習を行った。集会場、クリーンゾーンでは、会場の設営、従事者の受付、問診、PPE 着脱等について、1 班 5 名の従事者 2 班で実地演習を行った。

【まとめ】

防疫作業の迅速な実施には、従事者を受け入れる支援者が、計画書と作業内容を理解し、自ら行動できる事が重要である。しかし、家保職員は各作業場の総括等として防疫作業に従事するため、各作業場に 1 名程度配置されるのみである。このことから、現地対策本部となる振興局の総務班を中心に演習の組み立てと実践を行った。演習では、現地で各先遣隊が連絡を取り合い、計画書の作成を行うこと、また集会場等の支援者自ら作成した作業概要書に基づいて、実際に作業を行うこと等により、作業内容を十分に把握することができる演習とした。

これらによって、実際に発生があった場合にも、支援者が自主的に行動できると考える。しかし、人事異動等で毎年担当者が変更になることもあり、各担当者の作業の引継ぎが難しい面もあるため、今回作成した作業概要書に基づいた防疫演習を継続していく必要がある。